

令和元年度 事業 報 告 書 (2019年4月1日～2020年3月31日)

1. バドミントンの普及及び指導

(1) ジュニアに対する普及・指導活動の充実と社会人愛好者の組織づくりへの助成活動を進め、会員の拡大を図り303,743名の会員を得て、会員登録35万人の目標に更なる助成活動推進する。

(2) 第28回全国小学生バドミントン選手権大会

12月21日から12月25日までの5日間、徳島県アミノバリューホール・ソイジョイ武道館で役員延1,329名の指導により、男子の部団体49団体、女子の部団体49団体、6年生以下男子単42名、同複34組、女子単42名、同複34組、5年生以下男子単36名、同複34組、女子単36名、同複34組、4年生以下男子単34名、同複34組、女子単34名、同複34組、実人員632名の参加で開催。優勝者は男子団体京都府、女子団体埼玉県、6年生以下男子単澤田修志(北北海道)、同複安田翔・前田寛仁組(香川県)、同女子単東谷悠妃(北北海道)、同複戸上凜・石井空組(岡山県)、5年生以下男子単山脇弘奨(愛知県)、同複江藤友哉・堀内暁仁組(熊本県)、同女子単畠山想来(岩手県)、同複山北莉緒・長谷川葉月組(埼玉県)、4年生以下男子単寺島拓夢(宮城県)、同複池田純一朗・石川隼組(愛知県)、同女子単阿波芽衣咲(福岡県)、同複梅澤唯花・吉野羽都希組(東京都)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(3) 第20回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

8月11日から8月13日までの3日間、八代トヨオカ地建アリーナ(八代市総合体育館)、東陽スポーツセンターで、役員延1,451名の指導により、男子Aグループ61名、同Bグループ53名、同Cグループ49名、女子Aグループ62名、同Bグループ53名、同Cグループ47名、実人員325名の参加で開催。優勝者は男子Aグループ澤田修志(北北海道)、同Bグループ寺島拓夢(宮城県)、同Cグループ串間太政(宮崎県)、女子Aグループ神尾朱理(東京都)、同Bグループ女子芳賀凜歩(宮城県)、同Cグループ松本楓音(高知県)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(4) 第18回日本バドミントンジュニアグランプリ2019

12月6日から12月8日までの3日間、栃木県宇都宮市体育館、宇都宮市清原体育館で、大会役員・競技役員・補助員延369名体制のもと、男子の部36団体、女子の部35団体、実人員427名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉県、女子団体千葉県で、全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制の確立促進を図るとともに、ジュニア層への普及に大きな成果を収めた。

(5) 第35回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

7月20日から7月23日までの4日間、長岡市西山公園体育館で、役員延728名の指導により、男子の部35都道府県48チーム、女子の部39都道府県48チーム、実人員910名の参加で開催。優勝者は男子の部はりーあっぷ(愛知県)、女子の部小平ジュニア(東京都)で、少年少女相互の交流と体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成に効果を挙げた。

(6) 第49回全国中学校バドミントン大会

8月19日から8月22日までの4日間尼崎市記念公園ベイコム総合体育館(兵庫県尼崎市)で、役員延382名の指導により学校対抗男子24校、女子24校、男子単36名、同複36組、女子単36名、同複36組、実人員436名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子福島県立ふたば未来学園中学校(福島県)、同女子福島県立ふたば未来学園中学校(福島県)、男子単齋藤駿(福島県立ふたば未来学園中学校)、同複川邊 悠陽・城戸郁也組(岡山県倉敷市立倉敷第一中学校)、女子単明地陽菜(山口県柳井市立柳井中学校)、同複遠藤心夏・小笠原未結組(青森県青森山田中学校)で、全国中体連との共催で中学生に正しい技術を習得させることができた。

(7) 第20回全日本中学生バドミントン選手権大会

令和2年3月26日から3月28日までの3日間、エスフォルタアリーナ八王子(東京都八王子市)で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大会開催を中止した。

(8) 第47回全国高等学校選抜バドミントン大会

令和2年3月25日から3月29日までの5日間、鹿児島アリーナ、サンアリーナせんたい(薩摩川内市運動公園体育館)で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大会開催を中止した。

(9) 第37回全日本レディースバドミントン選手権大会

7月25日から7月28日までの4日間、広島県立総合体育館にて開催。都道府県対抗の部は42都道府県43チーム、実人員429名の参加。優勝者は兵庫県。また、クラブ対抗の部は同日、同会場で開催。35都道府県48チーム、488名の参加。広島エコークラブ(広島県)が優勝し、レディースへの普及と正しい競技の習得に大きな成果を収めた。役員延703名。

(10) 第14回全日本レディース(個人戦)バドミントン競技大会

12月6日から12月8日までの3日間、福井県営体育館、福井市体育館、勝山市体育館(ジオアリーナ)3会場で、ダブルス個人戦で実施し、40都道府県、実人員926名の参加で開催。

優勝者は1部宮本愛梨・川端葵衣組(福井)、2部Aブロック藤田梨那・大島美貴組(福井)、2部Bブロック福永亜紀・福島綾子組(鹿児島)、2部Cブロック高木圭子・葛西深雪組(岐阜)、2部Dブロック高崎朋子・堀池由紀子組(東京)、2部Eブロック竹田由美子・希有ユミ子組(大阪)、2部Fブロック近藤晴美・西川茂美組(滋賀)、2部Gブロック岩崎千春・今津裕美組(埼玉)、2部Hブロック川谷明子・堂山貴美子組(福岡)、2部Jブロック新田豊子・竹林佐代子組(香川)、2部Kブロック田倉泰子・宮崎美江子組(東京)、2部Lブロック佐藤美恵子・室田光枝組(埼玉)、2部Mブロック山本しづ子・中村聰子組(愛知/高知)、2部Nブロック佐藤督子・遠藤夫美子組(宮城/福島)でレディースへの普及と発展に成果を収めた。役員延508名。

(11) 用器具検査並びに認定

厳正なる検査の結果、第1種水鳥シャトル25種(16社)、第2種水鳥シャトル10種(9社)、ラインテープ3種(3社)、ラケット210種(18社)、検定工場19社、ネット19種(6社)、ストリングス50種(9社)、シューズ84種(9社)、ウエア631種(16社)、サービス高測定器15種(11社)を認定し、愛好者の使用の便を図った。

(12) 競技規則書等発行

各都道府県協会並びに7連盟で開催する審判講習会・検定会等でルールの周知徹底を図るためルール教本(2019年版3級・準3級公認審判員資格検定ルール教本「緑本」)を発行し、常に新しい競技規則等の正確な資料を提出し、正しいルールに基づく円滑な試合運営と公認審判員有資格者の増員と資質の向上を図った。

(13) 広報活動

HPを活用しての迅速かつ正確な情報公開と広報活動及びマスメディアに対して適時な情報、資料等を積極的に提供することにより、テレビ、新聞等の露出数が増大しPR効果を拡大し、バドミントン競技をより多くの人に理解を広めた。また、ジュニア選手層の開発に向けて、告知ポスター等を作製、全国に配布し、会員、愛好者の拡大を図った。

(14) 連盟に対する助成

学生連盟、高体連、中体連、小学生連盟、教職員連盟、レディース連盟、実業団連盟の7連盟に加え、今年度から社会人クラブ連盟の活動に対しても、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(15) 会員普及

次世代会員登録システムにより、全国の都道府県協会の会員登録業務の利便性の向上を図った。

(16) 小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高の一貫指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施した。

(17) バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開

本会が設立して以来の歴史やバドミントンそれ自体の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミントンの価値を多くの人々と共有し、バドミントンの発展に寄与するため、加盟団体に周年記念誌等の寄贈を依頼し収集を開始した。また、歴史展示パネルを作成し、ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン及びファン感謝祭の各会場において展示し公開した。更に、慈善団体であるイングランドバドミントンミュージアムへの寄付を行い、所蔵してある日本バドミントン関係の資料の寄贈を受けた。

(18) バドミントン・レガシーの創出と継承

我が国 のバドミントンの持続的発展を可能にする多様なバドミントン活動を、バドミントン・レガシーとして創出し、整備し、継承するため、昨年度に引き続きバドミントン未来創造アカデミーを開講し、6名の青年の人材育成を行った。また、その内の3人をイングランドに派遣し、バドミントンを育て、発展させた理念・文化を直接体験させた。

(19) 東京 2020 応援プログラムの実施

2020年東京オリンピックの機運醸成と、大会後のレガシー創出に向けて大会組織委員会が行なっている「東京 2020 参画プログラム」のバドミントン版プログラムを、本会が開催する中央会場あるいは都道府県協会が開催する地域会場において、あらかじめ設定したプログラム(シャトルアート、ラリーラリー)あるいは地域ごとの独自プログラムを実施し、日本全国のバドミントン関係者が繋がり、オリンピックに向けてのムーブメントを形成

した。また、このことを通じて都道府県協会事務局の安定運営に向けた支援を行った。

(20) バドミントンフェスタ2019

ファン感謝祭を9月1日(日)に品川区立総合体育館で開催。来場されたバドミントンファンに向けた感謝祭として2度目の開催となる同フェスタには、世界選手権で活躍した日本代表選手や、元日本代表のOB・OGが参加。会場には多くのファンが訪れ、選手によるトークショーや、OB・OGらによるクリニックなどを通じて交流を深め、バドミントンの魅力を大いに楽しんだ。 来場者数、2,000人

(21) 第2回NBAフォーラム

令和2年3月7日(土)に品川プリンスホテルで開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期(6/13)としたが緊急事態宣言発令に伴い開催を中止となりました。

2. バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定

(1) 公認レフェリー資格者の本会第1種大会への派遣

公認A級・B級レフェリー有資格者を2019年度実施の全ての第1種大会(23大会)とS/Jリーグ20会場にレフェリー及びディピュティーレフェリーとして派遣し、大会運営全般の統一性と公正化を図った。

(2) 公認レフェリー資格者の資質の向上

公認レフェリー資格者の資質の向上のために、レフェリーインストラクターを全日本総合選手権大会等の4大会に派遣。今年度は開催しなかった全国公認レフェリー研修会を、公認レフェリー間における競技規則等の諸規程に関する統一見解と大会の公正さの維持を図るために、令和2年度開催に向け調整を図った。

(3) 公認レフェリー資格検定会開催

大会における競技規則の統一と大会の公正さを図り、大会全般にわたる運営及び審判団の指導、管理を目的として設けられた公認レフェリー制度に基づき、A級レフェリー資格検定会の実技試験と追試試験を開催し、公認A級レフェリー2名(江刺家大介・百野育子)が合格した。

(4) 公認審判員養成講習会開催

審判員技術の向上と正しい競技規則の習得により円滑な大会運営を図るため公認審判員制度を設け、1級審判員検定会は本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、8連盟が主催し開催された。検定会は本会公認審判員資格審査認定委員が担当した。

(5) 公認審判員の資格認定登録

公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験の合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図った。公認審判員資格登録規程に定める審判員資格検定に合格した者は、1級58名、2級112名、3級2,664名、準3級5,305名、準3級から3級への移行者は730名で、それぞれが資格登録も完了した。また同規程により、1級185名、2級466名、3級11,319名の有資格者が資格更新登録をし、総数は、1級1,130名、2級1,396名、3級40,947名、準3級27,868名となった。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術の資質向上に役立ち、また、全国の数々の大会においてその審判能力は、大会運営において大きな効果を挙げた。

(6)国際審判員・国際線審の研修及び活動

国際審判員を国内開催の国際大会3大会に派遣し、大会成功に貢献した。さらに国際審判員資格既得者の研修・活動として国際審判員相互派遣交流大会である韓国オープン、BAC・BAA国際審判員試験アプライザルコースに国際審判員及び候補者を派遣した。また、BWF、Badminton Asia の指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を多数の国際大会へ派遣した。これらの派遣事業は国際交流に大いに貢献した。

(7)全国指導者養成担当者会議

公認スポーツ指導者制度の必要性や、2019年度に改訂された公認スポーツ指導者養成制度を理解し、すべての都道府県で養成講習会や更新研修会が開催されるよう、47都道府県担当者が集まり、会議やディスカッション等が7月（国立科学スポーツセンター54名）に行われた。

(8)講師競技別全国研修会

公益財団法人日本スポーツ協会と共に、都道府県で開催する公認コーチ1、コーチ2養成講習会（専門科目）で、コーチエデュケーター（講師）となり得るものと対象とした研修会を8月（味の素ナショナルトレーニングセンター41名2日間）に開催した。

(9)公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本スポーツ協会と共に、公認コーチ3の養成講習会を10月に前期3日間（味の素ナショナルトレーニングセンター）、2020年1月に後期4日間（味の素ナショナルトレーニングセンター）で開催した。

また、公認コーチ3、20名（内過年度分6名）と公認コーチ4、（過年度分3名）が専門科目検定試験に合格したことを公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。また、各都道府県バドミントン協会が各自の体育（スポーツ）協会と共に実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認コーチ2を静岡県、公認コーチ1を青森県、岩手県、神奈川県、山梨県、石川県、静岡県、愛知県、奈良県、高知県、熊本県、大分県の計11県で開催した。

(10)公認スポーツ指導者の資格更新のための更新研修会

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受けなければならぬ更新研修会を実施した。公認コーチ3、コーチ4の更新研修会は、8月（味の素ナショナルトレーニングセンター34名2日間）および2020年2月（立命館大学茨木キャンパス45名2日間）に開催した。最新の情報を得ることや、コーチとしての資質の向上を図りながらコーチ間の連帯を深めた。また、28都道府県協会（延38回）で、公認コーチ1・コーチ2資格更新ための更新研修会が実施され、指導者としての資質の向上を図った。なお、公認コーチ3、コーチ4の更新研修会受講者および各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認コーチ1、コーチ2の更新研修会受講者を、公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。

(11)全国巡回バドミントン講習会

全国でのバドミントンのさらなる普及とバドミントンの価値を高めるために、バドミントンをしたことのない人をバドミントンへ誘うとともに、指導者の質の向上を目指し、北海道、島根県、福岡県、奈良県、秋田県、香川県、愛知県、佐賀県の8つの会場で実施した。

3. 公益財団法人日本スポーツ協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びアジアバドミントン連盟(Badminton Asia)への加盟及び代表者派遣

(1) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣

公益財団法人日本スポーツ協会、JOCへ代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、バドミントン競技の発展を図った。

(2) BWF(世界バドミントン連盟)総会への代表者派遣

錢谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月23日に、中国・南寧市で開催されたBWF年次総会に派遣し、国際スポーツ振興のため協調し、世界バドミントン競技の発展を図った。

(3) Badminton Asia(アジアバドミントン連盟)総会等への代表者派遣

錢谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月25日に、中国・南寧市で開催されたBadminton Asia 年次総会に派遣し、アジアスポーツ振興のため協調し、アジアバドミントン競技の発展を図った。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1) 第69回全日本実業団バドミントン選手権大会

6月12日から6月16日までの5日間、深谷市総合体育館他計3会場で、男子団体181団体、女子団体45団体、実人員2,983名の参加で開催。優勝者は男子団体日本ユニシス(東京都)、女子団体再春館製薬所(熊本県)、競技役員延650名。

(2) 第12回全国社会人クラブバドミントン選手権大会(個人戦)

6月15日から6月17日までの3日間、カメイアリーナ仙台他1会場で、男子単214名、同複163組、女子単21名、同複79組、混合複130組、実人員607名の参加で開催。優勝者は、一般男子単:井田 淳貴(鳴本医院クラブ[島根県])、30男子単:藤本 ホセマリ(T. O. Wiver[東京都])、35男子単:山崎 元裕(PLAD[兵庫県])、40男子単:車 祥幸(劍[富山県])、45男子単:中島 信頼(個人[愛知県])、50男子単:東 太朗(泊山クラブ[三重県])、55男子単:船木 勝正(大門BC[愛知県])、60男子単:小池 博幸(NEW-CITY[東京都])、65男子単:松口 金彦(ILLC[大阪府])、70男子単:新井 春雄(習志野市[千葉県])、75男子単:堀越 進(個人[神奈川県])、一般女子単:矢田部 真奈(Raon[京都府])、35女子単:真田 範子(G. spank[愛知県])、一般男子複:山森 一真・山本 近来組(BADWEIZER[富山県])、30男子複:藤本 ホセマリ・福井 剛士組(T. O. Wiver[東京都])、35男子複:宮下 英之・熊倉 佑組(KSBC・LUCKY[神奈川県])、40男子複:松本 雅之・栄代 正男組(ワタキューセイモア・MBA[石川県])、45男子複:坂崎 真一・今井 一雄組(井口クラブ[富山県])、50男子複:神代 和久・櫟 敏明組(minton[富山県])、55男子複:船木 勝正・成瀬 達吉組(大門BC[愛知県])、60男子複:土井 吉光・森本 和幸組(川越クラブ・moritore[三重県])、65男子複:川前 明裕・松口 金彦組(大阪フェニックス・ILLC[大阪府])、70男子複:吉田 憲一・木村 健治組(京都シニア・ShuttleFive[京都府])、75男子複:川瀬 信治・長尾 又兵衛組(NANZANクラブ[愛知県])、一般女子複:藤井 桃子・和田 輝里組(NJ[京都府])、30女子複:岡崎 真奈美・武政 まゆみ組(earthclub[埼玉県])、35女子複:布目 沙矢香・草薙 美幸

組(CARROTCLUB[大阪府])、40女子複:富田 佳美・真田 範子組(RHBT・G. spank[愛知県])、45女子複:長丸 貴子・大畠 真喜子組(二水クラブ・鶴来クラブ[石川県])、50女子複:市野 寿子・小池 由紀子組(JU PITER・WISTARIA[愛知県])、55女子複:今泉 静子・北原 鶴美組(minton[富山県])、一般混合複:菊地 裕太・後藤 絵津穂組(SBD[宮城県])、合算60混合複:熊倉 佑・川原 あず沙組(LUCKY[神奈川県])、合算70混合複:岡田 淳・草薙 美幸組(相生クラブ・CARROTCLUB[大阪府])、合算80混合複:磯貝 謙太郎・田中 美月組(個人・横須賀クラブ[愛知県])、合算90混合複:佐々木 卓・佐々木 尚子組(ぎんなん会・HOTSHOT[神奈川県])、合算100混合複:宮崎 明樹・笛村 和子組(minton・井口クラブ[富山県])、合算110混合複:柳瀬 憲利・柳瀬 和子組(平安クラブ[京都府])、合算120混合複:櫟 敏明・今泉 静子組(minton[富山県])、合算130混合複:上前 茂人・佐野 信子組(大門BC・ベアーズ[愛知県])、競技役員延730名。

(3) 第70回全国高等学校バドミントン選手権大会

令和元年7月31日から8月5日までの6日間、熊本県八代市 八代トヨオカ地建アリーナ他4会場で、男子団体50団体、女子団体50団体、男子単98名、同複98組、女子単98名、同複98組、実人員1000名の参加で開催。優勝者は男子団体 聖ウルスラ学院英智高校(宮城県)、女子団体 ふたば未来学園高校(福島県)、男子単 奈良岡 功大(浪岡高校)、同複 河村 翼・川本 拓真 組(埼玉栄高校)、女子単 郡司 莉子(八代白百合高校)、同複 大竹 望月・高橋 美優 組(青森山田高校)、競技役員延900名。

(4) 第7回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

8月10日から8月11日までの両日、千葉県千葉ポートアリーナにて、実人員182名の参加で開催。優勝者は緑川大輝・鈴木ゆうき(早稲田大学)組、競技役員延 50 名。

(5) 第58回全日本教職員バドミントン選手権大会

8月10日から8月14日までの5日間、長崎県立体育館・長与町民体育館で、男子団体14団体、女子団体10団体、成年男子団体12団体、成年女子団体4団体、ハイパーエイジ男子団体9団体、一般男子単88名、同複54組、一般女子単25名、同複24組、30才以上男子単43名、同複24組、30才以上女子単11名、同複10組、40才以上男子単50名、同複29組、40才以上女子単5名、同複7組、50才以上男子単53名、同複34組、50才以上女子単13名、同複10組、55才以上女子単3名、同複3組、60才以上男子単25名、同複19組、65才以上男子単16名、同複12組、70才以上男子単13名、同複4組、の参加で開催。優勝者は男子団体福岡県、女子団体石川県、男子成年男子団体長崎県、女子成年女子団体千葉県、ハイパーエイジ男子団体東京都、一般男子単原口拓巳(福岡)、同複藤巻嵩寛・早川竣組(長野県)、一般女子単山本しづか(兵庫県)、同複山本しづか・野村このみ組(兵庫県)、30才以上男子単和田隆之介(島根県)、同複上原直・北風卓郎組(京都府)、30才以上女子松村咲希(香川県)、同複下島歩・谷順子組(東京都)、40才以上男子単小賀元裕(高知県)、同複中原学・小賀元裕組(高知県)、40才以上女子単木下八枝子(熊本県)、同複伊木文枝・長春玲子組(東京都)、50才以上男子単平岡篤司(奈良県)、同複平岡篤司・千田宏之組(奈良県)、50才以上女子単橋本仁美(香川県)、同複江澤曜子・平山久仁子組(東京都)、55才以上女子単岡野恵聖子(東京都)、同複安藤志津子・竹内ひろみ組(愛知県)、60才以上男子単井原孝夫(島根県)、同複井原孝夫・日笠和雄組(島根県)、65才以上男子単山本正人(鳥取県)、同複松本克芳・福田光博組(山口県)、70才以上男子単今里敏喜(長崎県)、同複辻村敏・黒瀬剛組(長崎県)、競技役員延500名。

(6) 第21回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

8月15日から8月18日までの4日間、小田原アリーナで、男子団47体団体、女子団45団体、男子単94名、

女子単98名、実人員543名の参加で開催。優勝者は男子団体東京都、女子団体福岡県、男子単久米田聖夜(東京都)、女子単本田可奈(福岡県)、競技役員延72名。

(7) 第43回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

8月31日・9月1日両日、キリンビバレッジ周南総合スポーツセンターで、男子団体12校、女子団体9校、男子単16名、同複16組、女子単16名、同複16組、実人員182名の参加で開催。優勝者は男子団体米子高専、女子団体熊本高専(八代)、男子単國分蓮太(北九州高専)、同複室屋鼓太朗・國分蓮太組(北九州高専)、女子単森本暁音(熊本高専(八代))、同複森本暁音・伊藤七奈星組(北九州高専)、競技役員延284名。

(8) 第62回全日本社会人バドミントン選手権大会

8月31日から9月4日までの5日間、福岡市総合体育館他1会場で、男子単404名、同複291組、女子単104名、同複131組、同混合複161組、実人員1,674名の参加で開催。優勝者は男子単古賀穂(東京)、同複高野将斗・玉手勝輝組(神奈川)、女子単下田菜都美(広島)、同複與猶くるみ・宮浦玲奈組(東京)、混合複西川裕次郎・尾崎沙織組(東京)、競技役員延730名。

(9) 第38回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月20日から9月23日までの4日間、新潟市東総合スポーツセンター他2会場で、ジュニアの部男子単75名、同複54組、女子単75名、同複52組、ジュニア新人の部男子単112名、同女子単112名、実人員531名の参加で開催。優勝者は男子単内野 陽太(埼玉)、同複町田 倭太・永渕 雄大組(長崎)、女子単高橋 美優(青森)、同複高橋 美優・加藤 佑奈組(青森)、新人男子単谷岡 大后(福島)、同女子単石岡 空来(福島)、競技役員延620名。

(10) バドミントンS/Jリーグ2019

11月2日から12月22日まで、札幌中央体育館他15会場で、男子10チーム、女子10チーム、参加選手約200名で開催。優勝は男子トナミ運輸(富山)、女子日本ユニシス(東京)、競技役員延約2,000名。

(11) バドミントンS/JリーグⅡ2019

11月15日から17日までの3日間、指宿総合体育館で、男子8チーム、女子8チーム、参加選手約150名で開催。優勝は男子丸杉(岐阜)、女子日立化成(茨城)、競技役員延約500名。

(12) 第70回全日本学生バドミントン選手権大会

10月11日から10月17日まで、神奈川県小田原アリーナにて、実人員約400名の参加で開催。競技役員延50名。※10月12日、13日に予定していた団体戦につきましては、台風19号の接近に伴い、参加学生の安全を最優先として考え、会場のある小田原市及び秦野市に避難勧告が発令されたこと、会場予定であった秦野市民体育館が避難所に指定されたことなどを重く受け止め、中止といたしました。

14日からの個人戦につきましては、周辺交通機関である小田急線及び東海道線が開通見込みとなり、また、大会会場の避難所指定及び避難勧告が解除されたことから、予定通り実施いたしました。男子単優勝田中湧士(日本大学)、男子複優勝山下恭平/山田尚輝(日本体育大学)、女子単優勝香山未帆(筑波大学)女子複優勝朝倉みなみ/斎藤ひかり(龍谷大学)

(13) 第36回全日本シニアバドミントン選手権大会

11月21日から11月24日までの4日間、宝来屋郡山総合体育館他9会場で、30才以上男子単128名、同複112組、30才以上女子単30名、同複45組、30才以上混合複70組、35才以上男子単124名、同複89組、35才以上女子単27名、同女子複50組、35才以上混合複65組、40才以上男子単134名、同複110組、40才以上女子単39名、同複73組、40才以上混合複91組、45才以上男子単135名、同複120組、45才以上女子単57名、同複85組、45才以上混合複104組、50才以上男子単126名、同複110組、50才以上女子単59名、同複93組、50才以上混合複105組、55才以上男子単101名、同複89組、55才以上女子単64名、同複84組、55才以上混合複95組、60才以上男子単105名、同複101組、60才以上女子単41名、同複68組、60才以上混合複77組、65才以上男子単79名、同複65組、65才以上女子単28名、同複43組、65才以上混合複52組、70才以上男子単58名、同複50組、70才以上女子単19名、同複33組、70才以上混合複36組、75才以上男子単34名、同複29組、75才以上女子単16名、同複19組、75才以上混合複21組、80才以上男子単11名、同複8組、80才以上女子単6名、同複9組、80才以上混合複6組、延べ5831名の参加で開催。

30才以上男子単石川佳樹(東京)、同複大岡昇平・梅林慎太郎組(福井)、30才以上女子単市川新子(愛知)、同複野村このみ・松村咲希組(兵庫・香川)、30才以上混合複伊東克範・堀川可奈組(石川)、35才以上男子単花本大地(鳥取)、同複佐海健太・岡田淳組(大阪)、35才以上女子単大石瞳(福岡)、同複益子友美・吉川美穂組(茨城・福岡)、35才以上混合複篠岡伸明・北條ともみ組(神奈川)、40才以上男子単藤本ホセマリ(東京)、同複藤本ホセマリ・福井剛士組(東京)、40才以上女子単松田奈緒子(石川)、同複荒瀬恵美・堀部麻耶組(東京)、40才以上混合複福井剛士・草薙美幸組(東京・大阪)、45才以上男子単町田文彦(東京)、同複町田文彦・岡田耕作(東京・愛知)、45才以上女子単立野美幸(岡山)、同複中津位江・及川あゆみ組(神奈川)、45才以上混合複中島真実・永春玲子組(東京)、50才以上男子単青木真也(千葉)、同複星明彦・気谷篤人組(石川)、50才以上女子単櫛山久美子(北海道)、同複羽生美恵・上田彰子組(茨城・東京)、50才以上混合複橋場孝啓・川島満組(北海道)、55才以上男子単江藤正治(熊本)、同複末坂進・神代和久組(富山)、55才以上女子単佐々木裕子(東京)、同複工藤なおみ・平児章子組(東京)、55才以上混合複小野美仁・村田直子組(埼玉)、60才以上男子単小池博幸(東京)、同複弓削義雄・中村一弘組(大阪・和歌山)、60才以上女子単赤澤五月(岡山)、同複内藤美智子・梅田眞澄組(神奈川・福岡)、60才以上混合複柳敬三・今津裕美組(東京・埼玉)、65才以上男子単山本清二(京都)、同複川前明裕・松口金彦組(大阪)、65才以上女子単市田礼子(東京)、同複梯栄子・市田礼子組(東京)、65才以上混合複中村一弘・山田泰子組(和歌山)、70才以上男子単歳嶋廣久(熊本)、同複堀明・歳嶋廣久組(熊本)、70才以上女子単三井房子(山口)、同複土庵清子・石井伸子組(奈良・山口)、70才以上混合複園部繁夫・浅越治子組(愛知・埼玉)、75才以上男子単廣田彰(宮崎)、同複千葉進・和田五郎組(宮城・岩手)、75才以上女子単石井伸子(山口)、同複山本しづ子・中村聰子組(愛知・高知)、75才以上混合複吉田邦男・中村聰子組(福島・高知)、80才以上男子単中西久昌(兵庫)、同複森田饒、金丸清昭組(東京・神奈川)、80才以上女子単下山タエ子(兵庫)、同複佐々木洋子・江原美智子組(東京・長崎)、80才以上混合複齋藤三男・佐藤督子組(神奈川・宮城)、競技役員延2,300名。

(14) 2019年第73回度全日本総合バドミントン選手権大会

11月26日から12月1日までの6日間、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で男子単61名、同複64組、女子単59名、同複61組、混合複49組、実人員468名の参加で開催。優勝者は男子単桃田賢斗(東京:NTT東日本)、同複・遠藤大由・渡辺勇大組(東京:日本ユニシス)、女子単奥原希望(東京:太陽ホールディングス)、同複永原和可那・松本麻佑組(秋田:北都銀行)、混合複渡辺勇大・東野有紗組(東京:日本ユニシス)、競技役員延1,800名。

(15) 日本マスターズ2019ぎふ清流大会バドミントン競技会

公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、9月21日から9月23日までの3日間、プリニーの総合体育館で、男子25都道府県及び韓国選手団計27チーム、女子22都道府県及び韓国選手団計24チームにより、リーグ戦及び勝ち抜いたチームによるトーナメント戦で実施。実人員337名の参加で開催。優勝者は男子東京都、女子大阪府、競技役員延307名。

(16) 第74回国民体育大会バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、9月29日から10月2日までの4日間、石岡市石岡運動公園体育館 1会場で、成年男子16団体、成年女子47団体、少年男子32団体、少年女子16団体、実人員444名の参加で開催。優勝者は成年男子の部富山県、成年女子の部熊本県、少年男子の部青森県、少年女子の部青森県、競技役員延854名。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1) ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2019

7月23日から7月28日までの6日間2020オリンピックの会場となる武藏野の森総合スポーツプラザで、男子単32名、同複32組、女子単32名、同複26組、混合複29組、実人員247名(日本選手35名、外国選手211名)の参加で開催。優勝者は男子単桃田賢斗(日本)、同複マルクスフェルナンディギデオン・ケビンサンジャヤスカムルジョ組(インドネシア)、女子単山口茜(日本)、同複コルミム・ソヨン・コン・ヒヨン組(韓国)、同混合複王一流・黄東坪組(中国)、競技役員延約1,500名。

(2) ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2019

4月3日から4月7日までの5日間、守口市民体育館で、男子単56名、同複38組、女子単47名、同複29組、混合複32組、実人員243名(日本選手100名、外国選手143名)の参加で開催。優勝者は男子単渡邊航貴(日本)、同複コ・スンヒュン&シン・ベックチャオ組(韓国)、女子単川上紗恵奈(日本)、同複保原彩夏&曾根夏姫組(日本)、同混合複キム・ウンホ&ジョン・ナヨン組(韓国)、競技役員延670名。

(3) ヨネックス秋田マスターズ 2019 バドミントン選手権大会

8月13日から8月18日までの6日間CNAアリーナ★あきたで、男子単40名、同複32組、女子単33名、同複27組、混合複27組、実人員204名(日本選手92名、外国選手112名)の参加で開催。優勝者は男子単Firman Abdul Kholik(INA)、同複Ou Xuan Yi・Zhang Nan組(CHN)、女子単An Se Young(KOR)、同複櫻本絢子・高畠祐紀子組(JPN)、同混合複Ko Sung Hyun・Eom Hye Won組(KOR)、競技役員延1,546名。

(4) ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2019

10月23日から10月27日までの5日間、エディオンアリーナ大阪他1会場で、韓国他5ヶ国を迎えてトーナメント戦で実施し、実人員1969名(日本選手1720名・外国選手249名)の参加で開催。優勝者はAゾーンYON EX MULAN(中国)、BゾーンChinese Taipei A(台北)、CゾーンChinese Taipei B(台北)、DゾーンChines Taipei F(台北)、Eゾーン沙羅クラブ B(奈良県)、Fゾーン鳳凰-PHOENIX(中国)、Gゾーンオールド(大阪府)、Hゾーンちばかな(千葉県)、Jゾーンミラクルパワー C(埼玉県)、Kゾーンミックス75愛知 C(愛知県)が優勝し、国際親善への普及と発展に成果を収めた。競技役員延681名。

(5) 日韓高校生交流競技会

5月13日から5月18日までの6日間、韓国青松郡へ団長リー・ワンワー他役員2名、選手男女各8名を派遣。

成績はAチーム1勝2敗、Bチーム1勝1敗。

11月29日から12月1日までの3日間、役員4名、選手男女各8名を迎える、長崎県長崎市で開催。成績は
男子団体0勝3敗、女子団体3勝0敗。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1) 日韓ナショナル交流競技会

4月16日から4月19日までの4日間、韓国河南市へ団長京田和男他役員3名、選手男女各10名を派遣。
成績は男子団体1勝1敗、女子団体2勝0敗。

(2) 2019年アジア選手権大会

4月21日から4月29日までの9日間、中国武漢市へ役員10名、選手男子13名、女子12名を派遣。成績は
男子単桃田賢斗優勝、女子単山口茜優勝、男子複遠藤大由・渡辺勇大組優勝、園田啓悟・嘉村健士組3位
女子複永原和可那・松本麻佑組2位、福島由紀・廣田彩花組3位。

(3) スティルマンカップ

5月16日から5月26日までの11日間、中国南寧市へ団長上松芳則他役員13名、選手男子8名、女子9名を
派遣。成績は団体2位。

(4) 世界選手権大会2019

8月15日から27日までの13日間、スイスバーゼル市へ団長京田和男他役員11名、選手男子12名、女子14
名を派遣。成績は男子単桃田賢斗優勝、女子単奥原希望2位、男子複保木卓朗・小林優吾組2位、女子複永
原和可那・松本麻佑組優勝、福島由紀・廣田彩花組2位、混合複渡辺勇大・東野有紗組3位

(5) 第27回日・韓・中ジュニア交流競技会

8月23日から8月29日までの7日間、中国湖南省長沙市へ役員3名、高校生男女各6名を派遣。成績は男子
団体0勝3敗、女子団体1勝2敗。

(6) 世界ジュニア選手権大会2019

9月26日から10月15日までの20日間、ロシアカザン市へ団長長谷川博幸他5名、選手男子4名、女子9名を
派遣。成績は団体3位、個人戦女子単郡司莉子優勝、女子複鈴木陽向・大澤佳歩組3位、男子複川本拓真・川本
翼組3位。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

公益財団法人日本スポーツ協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び選手強化本部の各部と連携
し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にして
いくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向
上と強化体制を図った。

(2) アンチドーピング対策

公益財団法人日本アンチドーピング機構(JADA)との協力により、「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施した。また、各種大会においてアンチドーピング啓発を行うとともに、ジュニア選手へのアンチドーピング・アウトリーチ活動を積極的に進めた。

(3) 選手強化

本年度は、2020年東京オリンピック対策プロジェクトと位置づけ、ナショナルトレーニングセンターの有効活用や国際大会への派遣を行い、ナショナルチームのより一層の選手強化を図った。結果として世界選手権大会では、男子シングルスで金メダル、女子ダブルスで金・銀メダル、男子ダブルスで銀メダルを獲得するとともに、主要国際大会でも好成績をあげた。また、ジュニア層においても引き続き、小中高一貫指導体制により競技力向上を図り、次代のオリンピック、世界選手権大会等に備え、有望選手の発掘に努めるとともに、強化合宿及び小・中・高校生の海外交流をはじめ国際大会に派遣するなど、選手強化体制の充実を図り、世界ジュニアバドミントン選手権大会の女子シングルスにおいて優勝するなど好成績を上げた。